

ラオス班

2024年度 後期総会

2024.11.30

班員

- 山本 育生 医学部医学科3年 班長
- 石川 真海 医学部医学科6年
- 長村 優里 歯学部4年
- 大迫 瑞季 医学部生命科学科3年
- 井手 紗里奈 医学部保健学科
検査技術科学専攻2年
- 堺 智弘 医学部医学科1年
- 中村 一誠 医学部医学科1年





目次

1 テーマと概要

2 活動内容

- － 1 ラオフレンズ小児病院と訪問看護
- － 2 聞き取り
- － 3 町で散策

3 ラオスの医療課題

1 テーマと活動概要

前期総会の振り返り
本活動で学ぶこと
ラオスでの活動

前期総会の振り返り

立班のきっかけ

歴史館バイト

職員の方から
ラオス研究の
話を伺った

ラオスの
民間医療を
もっと知りたい

前期総会の振り返り

職員の方から
ラオス研究の
話を伺った



徳安祐子さん

- 歴史館の職員の方
- ラオスで少数民族の研究（2004～2006年）
- 以降 断続的に補足調査
- 2012「「他者」としての知識：ラオス山地社会の呪医の知識についての試論」
- 『宗教研究』 86 (3), 603-627

立班のきっかけ

職員の方から
ラオス研究の
話を伺った

- 徳安さんは現地の方の家に滞在
- お世話になっていたのは呪術師
「**モー**」のご家庭
- 「モー」は医師と同じような存在



本活動で学ぶこと

ラオスの民間医療について理解する

予想

寺院や呪術師のところで処置をしてもらうのが一般的なのではないか

* 本活動における民間医療の定義

- 病院外で完結するもの
 - 巷で流行っている治療・美容法を含む
- 広くとらえて身近なものにも注目



ラオスでの活動



ラオスでの活動



ラオスでの活動 8/14~8/20



ラオフレンズ 小児病院見学

病院を見学
訪問看護に同行



聞き取り

2回 計8名
日常的な医療について



街の散策

寺院 薬局
ナイトマーケット
商業施設

2.活動内容

ラオフレンズ小児病院

聞き取り調査

街での散策

まとめ

1 ラオフレンズ小児病院 8/16

- 所在地：ルアンパバーン県（古都）
- 代表：赤尾和美さん
- 外来数：80～100人/日
- 病床数：61（2023）

AM 8:00 病院見学

AM 9:30 訪問看護に同行
3軒のお宅へ

PM 7:30 ホテル着



LAO FRIENDS
HOSPITAL FOR CHILDREN

どのような病院なのか



「国際基準に見合った、質の高い、
心のこもった医療を提供できる病院」を目指す



訪問看護：慢性疾患の患者のフォローアップ
保健・衛生観念が浸透していない農村部へ予防活動



「現地の人の手で運営できる病院」を目指す

訪問看護

- 少数民族であるカム族のお宅
- 呪術師による治療・祈祷が行われる
(事前インタビュー)
- 呪術師の印がないか探した

▶ 3つの集落を探したが
見つからなかった

* 観察者としてアクセスすることは難しい



2 聞き取り 8/17・18

日常的に利用する医療の
日本との違いについて一般の方に質問

- 第1回 対象4人 年齢：20代

職業：学生

* 通訳：徳安祐子さん
好光百合さん

- 第2回 対象4人 年齢：30代

職業：医師 医療従事者

* 通訳：徳安祐子さん
川口美子さん



聞き取りの内容

日本と似ている

常備薬

- 医師の家だと救急箱がある
- それ以外はアルコールなどの医薬品が家にある

例) タイの風邪薬 赤チン

ビタミン剤

- 男女問わず美容目的
- 日本のDHCのビタミンCなども服用



聞き取りの内容

日本と似ている

肩こり・腰痛

- 湿布
- マッサージ 整骨院 病院

歯痛

- 歯科医院受診

頭痛

- 解熱鎮痛剤

薬草サウナ

- 健康目的から娯楽まで



聞き取りの内容

日本と似ている

発熱

- 症状に合わせて選んだ薬を飲む
- 2日間ほど様子見る
- 回復しない場合やインフルエンザを疑う場合はすぐ病院受診

日本と異なる

- 抗生物質を薬局で**処方箋なし**で購入



聞き取りの内容

日本と異なる

薬用植物

- 軽傷の止血：**グアバ、Bitter Brushの葉**
- 止血できない場合は**上に重ねる**
- 庭や道端に生えている草を使うことも
- 漢方とは異なる



グアバの葉



Bitter Brushの葉

聞き取り調査での内容

日本と異なる

うつ病

- カラオケに行ったり草原に行ったりする
- 医師以外「患者も精神科医も少ない」
- 医師「患者はいるが医師不足のため
放置されている」
タイ在住医師がチャット上で診察
- ラオスの国民性が関係している



聞き取り調査での内容

寺院での祈祷

- 今回の聞き取りの対象の中で寺院に行くという人はいなかった

対象者の認識では…

- お祈りや願掛けに寺院に行く人もいる
- 若者はほとんど行かない

* 都市部に仏教信仰のラオ族が多い



聞き取りのまとめ

日本と似ている

- 風邪・発熱・痛みへの対処法
- サウナ・ビタミン剤の使用
- けがへの対処に消毒薬を使用

日本と異なる

- 薬局で処方箋なしで薬を提供
- 薬用植物の使用
- うつ病への認識
- 寺院での祈祷



3 街の散策

事前情報をもとに実情を調査する

- 8/15 ナイトマーケット 薬局 @ルアンパバーン
- 8/17 寺院 @ルアンパバーン
- 8/18 寺院 薬局 @ビエンチャン



寺院

- 訪れた寺院
ビエンチャン 8ヶ所
ルアンパバーン 3ヶ所
その内2ヶ所で僧侶に話を聞いた
- 訪れた寺院では
医療活動はしていなかった



薬局

- 日本では医師の処方箋が必要な抗生物質が売っていた
例) アモキシシリン
アンピシリン
- 日本と同様に熱さまシートも販売



コンビニにあった薬

- 風邪薬、鎮痛剤、胃薬など
日本のドラッグストアに売っているようなものが見られた



それ以外にあった薬

- ルアンパバーンのナイトマーケットで少数民族であるモン族がさそりのお酒を薬として売っていた
- ビエンチャンの商業施設の近くでモン族が薬草を売っていた



モン族の薬草

出産直後の症状改善

母乳がたくさん出る
ようになる

おりもの炎症、
生理痛、痔の治療



おりもの・子宮の
炎症、生理痛の改善



▶ 都市部で西洋医療が普及しても
慣習の中で伝統薬が大事にされていると推測できる

まとめ ラオスの民間医療

本活動で学ぶこと

ラオスの民間医療について理解する

予想

寺院や呪術師のところで処置をしてもらうのが一般的なのではないか

* 事前インタビュー



少数民族 呪術師を頼る人が多い



ラオ族 寺院を頼る人が多い

※信仰の違い

まとめ ラオスの民間医療

山間部

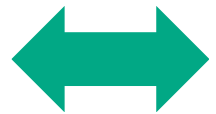
- 訪問看護
呪術師が何か施した印は見かけなかった

都市部

- 聞き取り
そういう人もいるかもというレベル
いないという人もいた
* 聞き取り調査をする対象によって得られる情報の差
- 街の散策
治療行為を行う寺院は見当たらなかった

まとめ ラオスの民間医療

今回は寺院や呪術師による処置を見つけることはできなかった



モン族が道端で薬草を売っていた

今回手配できなかった層にもアプローチしたい

ラオス都市部に特徴的なこと

- 最初は病院受診ではなく**薬局**で薬を購入することが多い
- **抗生物質**を処方箋なしで購入可能
- **伝統的な薬用植物**を使うことがある

3. ラオスの医療課題

都市部

山間部

おわりに

都市部の医療課題

- 薬剤師や本人が症状で判断する
- 薬局で抗生物質も購入できる

▶ 不適切な使用によって**耐性菌**が増え
感染症の治療が難しくなる可能性
重大な副作用が出てしまう可能性



最初に病院に行かない理由

- 処方箋なしで抗生物質が買える
- 病院でかかるお金はほぼ**自己負担**
- 保険制度は機能していない



ラオス政府

- 保健省にお金が回ってこない現状

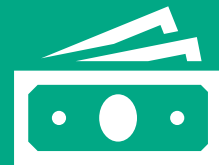
インフラや国内での産業の機能が高まって
国民の経済力が上がってからしか病院に行けない可能性

病院側の難点@ラオフレンズ小児病院



病床不足

廊下にもたくさんのベッド



資金不足

患者の家族が泊まる施設
手術費 交通費の補助
スタッフの外国研修



スタッフ不足

専門医がいない ▶ 外国から応援
(心臓外科 脳外科 整形外科)

山間部の医療課題

- 西洋医学の薬へのアクセス×
- 病院までのアクセス×

現状

おむつなどの海外製品を買えない
正しく使うことができない

深刻な母子の栄養不足

病気の治療が進まない
例) てんかん 骨髄炎



アクセスが悪い原因

慣習

- 産後の**食事制限**
- **海外製品**を使いまわす

インフラ

- 病院への**道のりが非常に長い**
- 道の状態が**悪い**

経済面

- 診療費 手術費 交通費
- 受診日に働けばその分**稼げる**



課題のまとめ

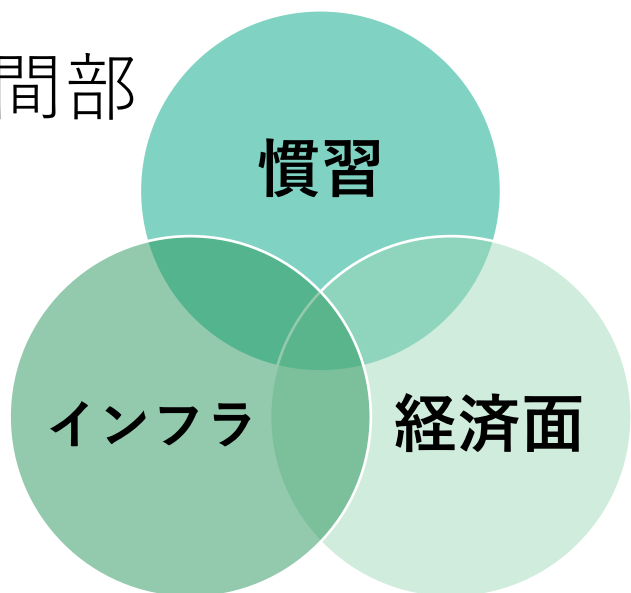
- 都市部

資金不足



西洋医学の薬へのアクセス◎
病院までのアクセス△

- 山間部



西洋医学の薬へのアクセス×
病院までのアクセス×

課題のまとめ

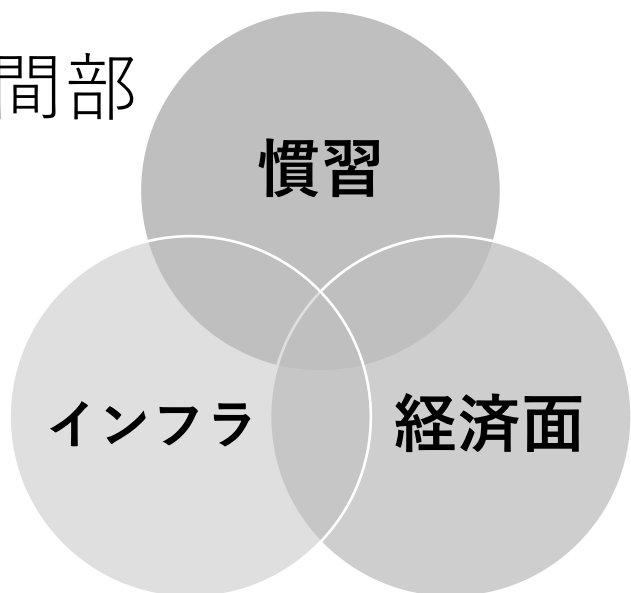
- 都市部

資金不足



西洋医学の薬へのアクセス◎
病院までのアクセス△

- 山間部



西洋医学の薬へのアクセス×
病院までのアクセス×

私たちができること

ラオフレンズ小児病院のような団体を外に発信する

外へ発信



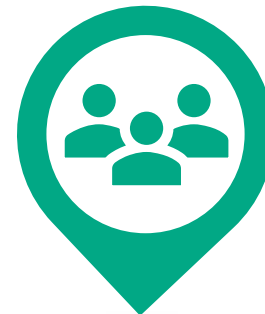
認知度が上がる



資金が集まる



人材 教育



経済的支援



おわりに

班員が中でも興味を惹かれた内容にクローズアップした活動

薬局



うつ病



薬用植物

* 社会主義国であることに十分注意が必要

来週末 東南アジア学会 ポスター発表@大阪大学

▶ 班活動を外へ発信
新しい活動のヒント

謝辞 | 事前インタビューにご協力いただいた方々

- WHOスタッフ：川口美子 先生
- ラオス保健省：宮野真輔 先生 永井真里 先生
- NTDs Youthの会：近藤裕哉さん
- 在ラオス日本国大使館現地職員：吉田香世子 先生
- 大谷大学社会学部講師：古谷伸子先生
- 島根県立大学 人間文化学部 地域文化学科 准教授：増原善之 先生
- フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN 代表
ラオ・フレンズ小児病院看護師：赤尾和美 さん

謝辞

- 医学歴史館 徳安祐子さん
- ラオ・フレンズ小児病院の皆様
- 現地でインタビューにご協力くださった皆様
- 九州大学医学部同窓会 九友会
- 九州大学医学歴史館
- 京都大学 地域研究科博士課程 安松弘毅さん
好光百合さん

参考文献

- フレンズ・ウィザウト・ア・ボーダーJAPAN <https://fwab.jp/about/japan/>
- JAMMIN https://jammin.co.jp/charity_list/190527-fwab/
- 岩佐光広 態度と応答の双方向的回路を開く 民博通信 2012 No.137 p.20-21
- 織り人 <https://orijin.asia/ethnic/hmong/culture-2/>
- 明治大学国際総合研究所、ドゥリサーチ研究所「平成 26 年度 新興国マクロヘルスデータ、規制・制度 に関する調査（ラオス）」
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/iryou/downloadfiles/pdf/macrohealthdate_Laos.pdf
- 令和 4 (2022) 年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況
https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/22/dl/R04_kekka-0.pdf
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/20/dl/gaikyo.pdf>



皆さんもぜひ海外へ